

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

久留米市長

市町村名 (市町村コード)	久留米市 (40203)
地域名 (地域内農業集落名)	川会地区 (今村、江口、門ノ上、唐島、志床、高島、灰塚、原、牧、馬渡)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和8年2月13日 (第2回)

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地区は、農業者の平均年齢は上がってきているものの、他地区と比較して若い年齢層の担い手が営農しており、営農組織も多数経営している状況である。  
 地区内の大半は基盤整備が完了しており、道路状況も良好なことから、地区外からの耕作者を誘致することも可能な地区である。  
 分散する担い手の農地を集約するとともに、降雨期に浸水する農地などは表作に水稻・裏作で野菜など、大きなブロックローテーションとエリア的なゾーニングが重要と考える。  
**【地域の基礎的データ】**  
 農業者:429人 団体経営体(法人・集落営農組織等)12経営体  
 主な作物:水稻、野菜、麦、花き花木、苗木など

(2) 地域における農業の将来の在り方

農作業の効率化を図るため、国県の支援事業を活用したスマート農業の導入を推進し、DX化を図り更なる効率化を目指す。  
 今後は、地域内外から農地を利用する者を確保し、担い手への農地の集約化に配慮しつつ、農業を担う者への農地の再分配を進めていく円滑な協議が実施できるよう環境整備を実施し、地域と担い手が一体となって農地を利用していく体制の構築を図る。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	308.9 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	308.9 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、その区域と住宅地との間にある農地は保全・管理を行う区域とする。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理事業の契約の効率化を仲介しながら、認定農業者を中心とした集積と集約を図る。
(2)農地中間管理機構の活用方針
担い手からの意見として中間管理事業の複雑さと、水稻作付を挟む苗木生産者との効率的なマッチングを進め、ゾーニングの確立から集約を具現化していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
地域内の殆どの農地は基盤整備が完了している農地である。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
行政機関はもとより、農業委員及び最適化推進委員をアドバイザーとして、域内外から多様な経営体の入り作を図りながら、地域農業に適した作物の栽培技術の継承と集約による団地化を進めていく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
当該地域では、JAの専門部会員は少ないことから、R8.4月のJA合併後の運営状況を注視しながら勘案していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input type="checkbox"/>	①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/>	②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/>	③スマート農業	<input type="checkbox"/>	④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/>	⑤果樹等
<input type="checkbox"/>	⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/>	⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/>	⑧農業用施設	<input checked="" type="checkbox"/>	⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/>	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

③⑨スマート農業機械導入により、川会校区内で栽培される水稻・野菜を対象に農作業の軽減と効率アップを進め、畜産農家との耕畜連携を推進し、地域農業の生産安定を図る。  
⑦校区全体で多面的機能支払交付金活用により、地域内の水路及び農地の保全管理を進める。

【令和7年度:拡大座談会結果】

集約できれば規模拡大していきたいので、地主との話し合いを行政が主導してほしいという意見あり。行政は所有者と耕作者の話し合いの中で両者の間を取り持つ形で関わっていくことを確認。  
また、基盤整備が終わっていない道が狭い農地や用水が届かない下流域などは集約が難しいという意見もあり、校区全体ではなくより小さいスポットで集積・集約を見ていく必要性を確認した。